

2026 年度 留学生試験

文学部

「日本語（読解・小論文）」

問題用紙

*解答は、すべて解答用紙に記入してください。

受 験 番 号	氏 名

【設問 A】次の文章を読み、後の問いに答えなさい。なお、答えは解答用紙に書きなさい。

読書は何のためにしなければいけないものなのか、読書をするとうどんな力がつくのか。すでに述べたように、読書は自分をつくるのに力がある。それとともに強調しておきたいのは、読書をするコミュニケーション力が格段に①するということだ。

普通の会話をしていても、読書力のある人とならない人とは、会話の質が変わってくる。学生を相手に会話をしていると、本を読んでいる学生かそうでないかはすぐにわかる。読書をしているかどうかという質問をしなくても、コミュニケーションの質からわかるのだ。

では、読書をしているかしていないかの影響は、コミュニケーションにどのような影響を与えるのであろうか。

はつきりと言えるのは、会話に^{注1}脈絡があるかどうかという違いだ。中学生や高校生の友だち同士の会話を聞いてみると、A まったく脈絡のない話を次々にしていることがよくある。それはそれで友だち同士なので楽しい会話になっているのかもしれない。問題は、親しい友人以外と話す場合だ。脈絡のない話し方は(1)つうようしない。相手の言ったこととまったく無関係に「ていうか」という始まりで、まったく別の自分だけに関心のある話をしたならば、相手はうんざりしてきて人格さえも疑うようになる。脈絡のない話し方は、社会性がないと受け取られる。

では、脈絡のある話し方は、どのようにしてできるのか。

それは、相手の話の要点をつかみ、その要点を引き受けて自分の角度で切り返すことによつてである。通常、人の話にはB幹と枝葉がある。しっかりと相手の言っていることの幹を押さえて、それをより伸ばすように話をするのが会話の王道だ。この幹をつかまえる力は、読書を通じて要約力を鍛えることによって格段に向上する。

会話は空中を流れていくイメージなので、つかまえどころがない。②、本は文字が固定されているので、振り返って要点を探しやすい。読書で要旨をつかまえることのできない人は、質の高い会話のやりとりは難しい。会話で要点を②外さずに捉え、うまく切り返す能力は、いわばどのコースに来るかかわからない球を打つようなものだ。本の場合は文字として固定されているので、どのコースに球が来ているのかくらいはわかる。そこで要約力を鍛えることによって、ライブでの会話の要約力が向上する。

会話は、自分の話したことがきちんと相手に受け止められると思うことによって、お互いに盛り上がる。きちんと受け止めたかどうかを③しめすが、相手の言っていることを自

分の言葉で言い換えるというレスポンス（応答）だ。「なるほど」、「そうですね」、「たしかに」といった相槌^{あいづち}だけでも、会話は^{注2}潤滑油^{じゅんかつゆ}を③ように滑らかにする。

この相槌をより行動にしたものが「自分の言葉で言い換える」ということだ。相手の言葉を^{注3}鵲返^{おうち}しにするだけでも、会話のリズムはよくなる。それをヴァージョンアップさせて、言葉を換えて同じ内容を言い換えることができれば、相手の言っている内容をしっかりと理解しつかまえていることが、相手側にもはっきりと伝わる。「同じ内容を自分の言葉で言い換えてみよう」という課題は、幼い頃から繰り返し練習する^{注4}かちのあるものだ。この「言い換え力」は、コミュニケーションの中でもっとも基礎的なもののひとつだ。

自分の言葉で言い換えるためには、語彙^{ごい}が^{注5}豊富である必要がある。それは読書によって効率よく鍛えられるものだ。言い換えにはコツがある。抽象的なものは、具体的なものに少し直し、具体的な発言に対しては、少し抽象度の高い言い方で言い換える。

新書系の本の場合は、論旨^{ろんし}が具体例とセットになって書かれていることが多い。一般的な言い方の文章の後に、「たとえば」というように例が挙げられる。これを二人の会話で行うということだ。一般的な発言に対しては具体例を、具体例を相手が挙げれば、それを一般化する。こうしたやりとりによって、幹を失わない、しかも起伏のある会話ができる。

会話をしていて相手が喜ぶのは、自分のいった話が無駄に終わらずきちんと相手に届いて、しかも生かされていると感じる場合だ。それが具体的にはつきりするのは、相手の話の中に自分の言ったキーワードが入り込んでいるかどうかである。自分の発言の中でも、重要だと自分が感じていた言葉（キーワード）を相手が使ってくれば、それだけでも会話に勢いが出て来る。

Ⅰ この程度のことならば、読書をしなくても何とかできるかもしれない。読書経験が生きてくるのは、五分前、十分前、二十分前に話された相手の言葉を引用して会話に組み込める技においてだ。現在の文脈そのものには出てこない、いわば、すでに地下に潜ってしまった水脈を、もう一度掘り起こすのである。

その言葉を話した当人でさえも、今の時点では意識していない言葉を、もう一度舞台上に上げる。

Ⅱ、相手は自分の過去に話した話と現在の話とが結びつくのを感じ、自分の中に脈絡ができたことを喜ぶ。もつとも気が利^きいているのは、話している相手がつながっていないものをつなげてあげるということだ。こうしたことができるためには、相手の言葉をしっかりと押さえておく必要がある。この力をつけるためには、「メモを取る習慣」が必要だ。

私はちよつとした会話でも、簡単なメモを取る。図にすることもある。メモを取っておけ

ば、相手の話の脈絡がつかみやすい。会話をクリエイティブにするには、自分の思考と相手の思考とを混ぜ合わせる必要がある。自分の言いたいことだけ言って終わりという人を見る。④ 見かける。これは思考のすり合わせができていないケースだ。メモを取る習慣のある人は、自分の脈絡だけで話をしないようになる。

メモをする力も、読書を通じて鍛えられる。離れた段落に脈絡を探す練習が、メモ力を鍛える。「今読んでいることは、たしか前の方でも出てきたな」と思って探してみる。そして該当箇所があれば、そこに線を引いたり○で⑥囲んだりする。こうすることによって、前後関係に、読者である自分が積極的に脈絡をつけることになる。あるいは、読み進めながら「あ、ここは後で大事になりそうところだな」という感性を働かせながら、チェックをしていく。全部が当たる⑤ではなくとも、後でそのチェックが生きてくる。

肝心なのは、常に脈絡を考えながら読書をし、会話をすることだ。脈絡のない内容の本も世の中にあることはないが、通常本は脈絡を大事にしている。いわばストライクが常に来る④バッティングセンターのようなものだ。一般の会話は、ストライクゾーンに来るとは限らない。相手の話自体に脈絡がないことも多いからだ。まったく脈絡のない話に脈絡をつけるのは、さすがに難しい。本のようにきちんとした主張があるもので脈絡をつける練習をする方が⑦こりてきた。しかも本の場合は、内容は会話に比べて多く含まれているので、そこで練習をしておけば、実際の会話では要点をつかむのは一層容易になる。

本の著者は、それぞれ自分の主張やペースを持っている。そうした複数の著者と付き合うことで、聞く力が⑧練れてくる。本によっては、非常にわがままな著者もいる。それに著者はたいがい個性的だ。様々なタイプの著者に数多く付き合うことで、いわば人間が練れてくる。人の話をきちんと聞き続けることができるだけでも、相当社会性は高いと言える。

『読書力』 齋藤孝より 一部改変

注1 脈絡：話や文章の流れのつながり

注2 潤滑油：機械の動く部分にぬって動きをよくする油。ここでは人間関係や仕事など、スムーズに進むように助けるもの

注3 鸚鵡返し：相手が言ったことを、そのままくり返して言うこと。鳥の「オウム」が人の言葉をまねして話すようなイメージ

注4 バッティングセンター：野球の練習ができる娯楽施設。機械が投げる野球のボールをバットで打つところ

問1 本文中の①に入る言葉として、最も適切なものを一つ選び記号を書きなさい。

- 1 アピール 2 コントロール 3 アップ 4 リード

問2 本文中のA「まったく脈絡のない話を次々にしていることがよくある」について、この文中の「まったく」と同様の意味で使われているものはどれですか。最も適切なものを一つ選び、記号を書きなさい。

- 1 アンケート結果は、予想していた傾向とまったく逆で、担当者が驚いていた。
2 まったく、日本の夏は湿度が高くて大変だ。
3 彼女の意見は私の考えとまったく同じで、驚いてしまった。
4 昨日からずっと待っているのに、まったく連絡が来ない。
5 あの学生は、まったくよく頑張っていて感心する。

問3 本文中のB「幹と枝葉がある」とは、どういう意味ですか。最も適当なものを一つ選び、記号を書きなさい。

- 1 話すときに、まず細かい説明をしてからゆっくり結論に入る傾向がある
2 途中で枝のようにあちこちに話が広がって聞く人にとってわかりにくいことがある
3 話の内容には、大切な部分とそうでもない細かい部分がある
4 注意点として、外に見える行動と話し手の心理に違いがある

問4 本文中の②に入る言葉として、最も適切なものを一つ選び記号を書きなさい。

- 1 それに対して 2 それについて 3 それにともなって 4 それにしても

問5 本文中の③に入る言葉として、最も適切なものを一つ選び記号を書きなさい。

- 1 注ぐ 2 注がれた 3 注がない 4 注いで

問6 本文中のⅠ・Ⅱに入る言葉として、それぞれ最も適切なものを一つずつ選び、番号を書きなさい。

- 1 すると 2 つまり 3 また 4 しかし 5 したがって

問7 本文中の④に入る言葉として、最も適切なものを一つ選び記号を書きなさい。

- 1 しばしば 2 せいぜい 3 しぶしぶ 4 いよいよ

問8 本文中の⑤に入る言葉として、最も適切なものを一つ選び記号を書きなさい。

- 1 べき 2 こと 3 わけ 4 もの

問9 本文中の内容と合っているものに○を、間違っているものに×をつけなさい。

1 本の内容は会話より情報量が少ないため、本で脈絡づくりの練習をしても、実際の会話ではあまり役に立たない。

2 メモを取る習慣があると、相手の話の脈絡をつかみやすくなって、自分の言いたいことだけを話してしまう状況を防ぐことができる。

3 相手の少し前の発言を取り上げて会話につなげると、相手は話が古いと感じて不快になり、会話は続きにくくなる。

4 いろいろなタイプの著者の本を読むことで、人の話を聞く力が高まり、人間としての社会性も育つ。

問10 (1)(3)(4)(7)のひらがなを漢字で、(2)(5)(6)(8)の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

【設問 B】次の内容について、作文を書きなさい。（400 字～600 字）

まず、【設問 A】の本文の内容を要約しなさい。その後、読書に対するあなたの考えや経験について、【設問 A】の本文の内容と関連付けながら、具体的に書きなさい。